

教育



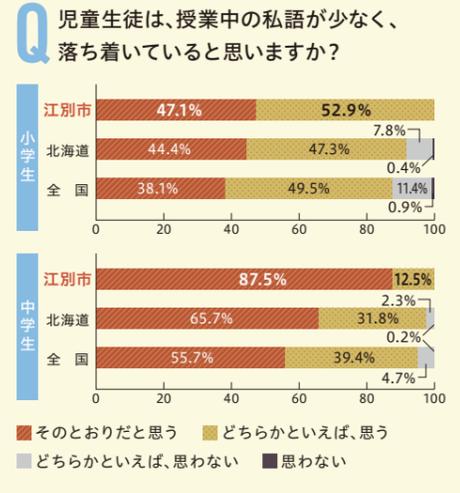
全国・全道平均を上回る学力

令和5年度全国学力・学習状況調査の教科別の結果 (平均正答率)

| 学年 | 国語 | 算数 |
|-------|-------|-------|
| 小学6年生 | 70.4% | 65.1% |
| 北海道 | 65.8% | 61.0% |
| 全国 | 67.2% | 62.5% |

| 学年 | 国語 | 数学 | 英語 |
|-------|-------|-------|-------|
| 中学3年生 | 73.3% | 52.5% | 46.5% |
| 北海道 | 69.4% | 49.3% | 43.9% |
| 全国 | 69.8% | 51.0% | 45.6% |

令和5年度全国学力・学習状況調査の学校質問紙の結果



複数教員による学習支援

児童・生徒一人一人の学習状況に応じた授業を提供するため、学習サポート教員(退職教員など)を全ての小・中学校に派遣し、複数の教員が指導するチーム・ティーチングや、放課後・長期休業中の学習支援を行っています。



小1からネイティブによる英語学習

江別市の小学校では、1年生からの外国語活動を道内でいち早く取り入れました。10人の外国語指導助手を各小・中学校へ派遣し、小さいころからネイティブの英語に慣れ親しみ、異文化を理解し尊重する態度や他者とのコミュニケーション能力を伸ばす教育に取り組んでいます。

遊びを中心とした運動プログラムで体力向上

北翔大学の協力のもと、「走る」「跳ぶ」「投げる」など体を動かす遊びを中心とした運動プログラムを実践することで、あらゆるスポーツや運動の基礎的能力を高める取り組みを行っています。

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果 全国平均を「50」とした場合の相対的な位置

| 学年 | 性別 | 握力 | 上体起こし | 長座体前屈 | 反復横とび | 持久走 | シャトルラン 20m | 50m走 | 立ち幅とび | ボール投げ | 体力合計点 |
|-------|----|------|-------|-------|-------|------|------------|------|-------|-------|-------|
| 小学5年生 | 男子 | 54.2 | 50.6 | 50.7 | 53.2 | — | 49.7 | 47.9 | 52.2 | 51.2 | 51.5 |
| | 女子 | 53.2 | 49.9 | 50.4 | 53.9 | — | 49.9 | 47.1 | 51.8 | 51.7 | 51.3 |
| 中学2年生 | 男子 | 52.1 | 50.2 | 48.3 | 50.5 | 58.6 | 48.8 | 48.1 | 51.2 | 49.8 | 49.7 |
| | 女子 | 50.6 | 47.5 | 47.4 | 50.3 | 53.6 | 48.5 | 48.3 | 49.8 | 47.8 | 48.2 |

※ボール投げは、小学5年生がソフトボール、中学2年生がハンドボール
※中学2年生は、持久走と20mシャトルランのいずれかを選択、小学5年生は20mシャトルランのみ

江別市ならではの体験教育



江別市都市と農村の交流センター えみくる

江別の食と農の魅力を発信し、農村地区と都市部との交流を活性化させるための施設。テストキッチンが併設されており、パンやピザ作り、そば打ちなどさまざまな種類の料理教室を開催しています。



セラミックアートセンター

「観る」「創る」「集う」をコンセプトに、北海道のやきもの文化を発信するセラミックアートセンター。陶芸や絵付け体験ができる講座を定期的で開催しています。



悩みを抱える児童生徒をサポート

学校に行きたくても行けない子どもたちの学習支援、生活習慣の改善、悩みや不安の解消、心の居場所づくりなどを目的として「教育支援センターねくすと」を設置。専任指導員や相談員、学習サポーターが子どもたちを支援しています。



小・中学校の全児童・生徒にタブレット端末を貸与

小・中学校に整備したICT機器を活用し、Society 5.0時代に必要な情報活用能力を育成していくとともに、進んで学習に取り組み、周りの人々と共に考える授業を進め、子どもたちの学力の育成を図ります。

子どもたちが変化の激しい社会の中で、他者を尊重しながら生きていく力に身に着けるため、江別市では、一人一人の個性に応じたきめ細やかな教育が受けられる環境づくりに取り組んでいます。
令和4年度に先行導入した第二中学校区(モデル校区)に続き、令和5年度から全ての市立小・中学校で「小中一貫教育」を実施しています。

全ての小・中学校で小中一貫教育を実施

各中学校区で「中学校卒業時点での目指す子ども像」を共有し、学校・家庭・地域が協力しながら子どもたちを育てます。また、学習や学校生活の基本的なルールを中学校区でそろえ、一貫した指導と系統的な指導を行い、目指す子ども像の実現に向けた取り組みを行います。



小学校の授業の一環として、江別の畑で、小麦が生産されてから麵になるまでをたどる「小麦追跡学習」が行われています。
児童たちは、生産者の小麦畑を訪れ、収穫前のハルユタカに触れながら、一年間の生産の流れや他品種の小麦との違いを学びます。また、「えみくる」で小麦の生産から加工・流通までの過程を学び、その後、実際に製粉・製麺を体験。小麦が身近なところで栽培され、学校給食に提供されるラーメンやパンなどに姿を変え、市民の元に届いていることを学びます。
同様に田植えの体験授業もあり、農業が盛んな江別らしい食育が行われています。



食育の取り組み



姉妹都市・友好都市との交流

姉妹都市であるアメリカ・グレシャム市(中・高校生対象)や友好都市である高知県土佐市(小・中学生対象)との相互交流事業を行っています。体験入学やホームステイなどを通して、異なる文化に対する理解を促し、社会性を育みます。



安全安心でおいしい学校給食

子どもたちが安心して食べることができるよう、江別産の米や小麦、野菜を積極的に使った安全安心でおいしい給食を提供しています。また、給食の献立を生きた教材として、栄養教諭が子どもたちに「食の指導」を行っています。